

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-220117

(43) 公開日 平成9年(1997)8月26日

(51) Int.Cl.
A 45 D 33/00
34/00

識別記号
650
510

府内整理番号

F I
A 45 D 33/00
34/00

技術表示箇所
650Z
510Z

審査請求有 請求項の数35 OL (全8頁)

(21) 出願番号 特願平9-29442

(22) 出願日 平成9年(1997)2月13日

(31) 優先権主張番号 96 01812

(32) 優先日 1996年2月14日

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 391023932

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ、リュ・ロワイヤル 14

(72) 発明者 ジャンルイ・ッシュ・グレ

フランス・75018・パリ・リュ・エジェシ

ップ・モロー・15

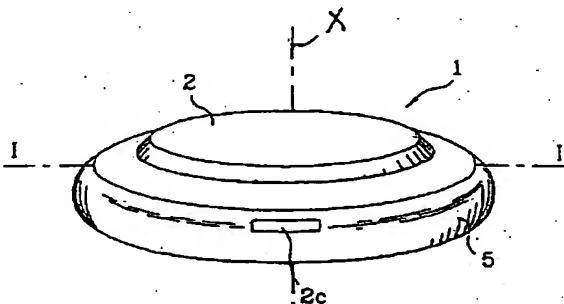
(74) 代理人 弁理士 志賀 正武 (外2名)

(54) 【発明の名称】 可換性底面を有するメイクアップ及び/または化粧用手入れ製品用の容器

(57) 【要約】

【課題】 パウダー状もしくは半液状の製品を収容し、輸送及び/または貯蔵の間に製品がこぼれることができなく、製品を充分な量で取り出すことができる容器を提供する。

【解決手段】 固定したスクリーンを取り付けた、硬質の本体及び可換性底面を具備する容器を構成する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 パウダー状もしくは半液状の製品(8)用の、軸(X)を有する容器(1)であって、硬質の本体、及び前記本体と共に前記製品(8)を収容する少なくとも一の体積可変の区画を構成する可撓性底面(4)及び前記可撓性底面に加圧した際に製品が通過することのできる少なくとも一のスクリーン(9)を具備し、前記スクリーンが、容器の軸Xに沿った動作に対しては固定された状態で容器内部に配設されていることを特徴とする容器。

【請求項2】 本体に取り出し開口部(3)が設けられ、可撓性底面がこの開口部に収納された貯蔵部(13)の一部分を形成することを特徴とする請求項1に記載の容器。

【請求項3】 可撓性底面、開口部及び体積可変の区画が、同一の横断面を有し、これらが容器の軸Xに沿って配列していることを特徴とする請求項2に記載の容器。

【請求項4】 貯蔵部が本体に固定された状態で配設されていることを特徴とする請求項1から3のいずれか一項に記載の容器。

【請求項5】 本体の上部表面(5a)が、可撓性底面から離間した面において、スクリーンと同等以下の高さにあることを特徴とする請求項1から4のいずれか一項に記載の容器。

【請求項6】 可撓性底面が可撓性膜(4a)を具備することを特徴とする請求項1から5のいずれか一項に記載の容器。

【請求項7】 可撓性膜が、静止位置においては体積可変の区画から突出する形状であって、作動位置においては製品を分配するために、静止位置にある可撓性膜の形状と反対の形状を有することを特徴とする請求項6に記載の容器。

【請求項8】 前記形状が可撓性膜の静止位置において容器の外側に凸状であり、作動位置においては容器の内側に凸状であることを特徴とする請求項7に記載の容器。

【請求項9】 可撓性底面がフォーム(7)を支持する可撓性膜を具備し、このフォームが製品(8)を押し出すものであって、任意に製品(8)と接触していることを特徴とする請求項1から8のいずれか一項に記載の容器。

【請求項10】 可撓性底面が製品(8)に向けたピストン(4b)を支持し、任意に製品と接触している可撓性膜を具備することを特徴とする請求項1から9のいずれか一項に記載の容器。

【請求項11】 製品(8)が1μmから100μmの範囲の粒子径を有するパウダーであることを特徴とする請求項1から10のいずれか一項に記載の容器。

【請求項12】 製品が粘度10⁻²から0.15Pa.sの範囲の粘度を有する半液状形態であることを特徴とする

請求項1から10のいずれか一項に記載の容器。

【請求項13】 アブリケータ部材(12)を具備することを特徴とする請求項1から12のいずれか一項に記載の容器。

【請求項14】 アブリケータ部材が、殺菌剤及び滑剤より選択される少なくとも一の添加剤によって被覆及び／または浸透されていることを特徴とする請求項13に記載の容器。

【請求項15】 スクリーン(9)が、織物もしくは不織材料、網、穿孔したフィルム及びこれらの組み合わせより選択される材料に、任意に殺菌性もしくは静菌性添加剤を浸透させてなることを特徴とする請求項1から14のいずれか一項に記載の容器。

【請求項16】 スクリーン(9)が1μmから2.5mmの網目を有することを特徴とする請求項1から15のいずれか一項に記載の容器。

【請求項17】 スクリーン(9)が製品の解放表面から遠隔して設置されることを特徴とする請求項1から16のいずれか一項に記載の容器。

20 【請求項18】 貯蔵部(13)が本体に固定するための手段(11, 15)を具備することを特徴とする請求項1から17のいずれか一項に記載の容器。

【請求項19】 固定手段が、本体に直接スナップ止め、溶着もしくは接着された円周フランジ(15)を含むことを特徴とする請求項18に記載の容器。

【請求項20】 固定手段が、本体との間に貯蔵部を挟む枠(11)を備え、この枠が、スクリーンへの接近を確実にする開口部(11c)を具備することを特徴とする請求項18または19に記載の容器。

30 【請求項21】 貯蔵部と本体との間に密閉手段(10)を具備することを特徴とする請求項2から20のいずれか一項に記載の容器。

【請求項22】 固定手段が第一の密閉手段(10)を具備することを特徴とする請求項21に記載の容器。

【請求項23】 貯蔵部(13)が本体に取り外し可能なように設置され、詰め替え部を構成することを特徴とする請求項2から22のいずれか一項に記載の容器。

40 【請求項24】 貯蔵部が取り外し可能な保護手段(16)を具備することを特徴とする請求項2から23のいずれか一項に記載の容器。

【請求項25】 本体(5)上に回動自在化フタ(2)が設置されていることを特徴とする請求項1から24のいずれか一項に記載の容器。

【請求項26】 第二の密閉手段(9)をフタと本体との間に具備することを特徴とする請求項25に記載の容器。

【請求項27】 第二の密閉手段が前記アブリケータ部材(9)からなることを特徴とする請求項26に記載の容器。

50 【請求項28】 可撓性底面(4)の中央部(4f)

が、周囲より硬質であることを特徴とする請求項1から27のいずれか一項に記載の容器。

【請求項29】 アブリケータ部材が、枠(11)の溝(11b)と相補的な円周状丸縁(12b)を具備することを特徴とする請求項13から28のいずれか一項に記載の容器。

【請求項30】 本体底面端(5a)が、可撓性底面と同一もしくはこれより低い高さに設置されていることを特徴とする請求項1から29のいずれか一項に記載の容器。

【請求項31】 可撓性底面が非滑性の握り部を構成していることを特徴とする請求項1から30のいずれか一項に記載の容器。

【請求項32】 アブリケータ部材が毛房、羽、フロックコート(12a)もしくはフォームを具備することを特徴とする請求項13から31のいずれか一項に記載の容器。

【請求項33】 製品(8)がメイクアップ及び/またはスキンケア製品であることを特徴とする請求項1から32のいずれか一項に記載の容器。

【請求項34】 アブリケータ部材がバフ(9)であることを特徴とする請求項13から33のいずれか一項に記載の容器。

【請求項35】 スクリーンがフロック状表面を具備することを特徴とする請求項1から34のいずれか一項に記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はパウダー状もしくは半液状製品の実装及び分配のための容器に関する。この製品とは、特に、皮膚もしくは頭髪のための手入れもしくはメイクアップ製品のためのパウダー、特にパウダー、チークブラッシャーもしくはアイシャドウ、もしくはさらにメイクアップファンデーションである。

【0002】

【従来の技術】 メイクアップパウダーのための従来の容器は、フタで閉じられる硬質の本体からなり、この容器はパウダーを収容した垂直に可動な貯蔵部もしくは硬質の皿部及びパウダーが通過することのできるスクリーンを備えている。これらの容器はさらに、スクリーン上に配置されるアブリケータ部材、例えばバフを具備する。バフからスクリーンに加えられる機械的圧力によって、ある程度の量のパウダーを取り出すことが可能となる。

【0003】 残念ながら、このタイプの容器のスクリーンの可動性が制御できないことから、特にハンドバッグもしくは旅行ケースの中で輸送される場合にはしばしば起こることであるが、この容器が閉じた状態で動かされたり振られた場合には、パウダーが継続してスクリーンと接触する。パウダーとスクリーンとの継続的な接触によって、バフに固着したもしくは付き過ぎたかなりの量

のパウダーが取り出されることになる。したがって、使用者が自身に向けて容器を開けた場合、バフに付着した余分なパウダーがこぼれて容器全体及び周囲の空間を汚す。このように、こうした容器はパウダーの密閉性が悪いという欠点を有する。

【0004】 さらにまた、パウダーコンパクトは上記と同様であることの他に、さらに加湿(damping)及び/または通気(aerating)手段を備えていることが知られている。こうした容器としては特に、仏国特許出願27

10 19202号に記載のものがある。加湿及び/または通気手段には、連続した取り出し操作の間にパウダーを分解(decompact)及び/または通気する目的がある。

【0005】 このタイプの容器では、加湿及び/または通気手段が常時パウダーに作用し、パウダーが、特に容器が閉じた状態で振られた場合には、継続してスクリーンと接触している。さらにまた、容器が振られた際に必然的に通気されることによって、パウダーが貯蔵部からこぼれやすい。したがって、この容器はパウダーの不完全な密閉という同様の欠点を有する。

【0006】 さらにまた、上記のタイプの容器では半液状製品の貯蔵及び分配ができない。実際、このような製品は、それ自体の重量によって容易に流れ出すために、スクリーンを通ってこぼれる量が過大である。このことによりアブリケータ部材に浸透した製品が過多になり、この部材が使用不能になる。

【0007】 米国特許出願4557620号には、パウダー状製品のためのアブリケータ容器が記載されており、この容器では製品貯蔵部の下に設置することができ、加圧空気を注入してパウダーと接触させることができるようにじゅばら型装置を有することによって製品の取り出しを促進している。このパウダーは貯蔵部内に一定量で収容されている。このような装置にはまた、輸送の際の密閉性の問題並びにパウダーの一回量の正確性に関する問題がある。しかしながらこれらの問題は、この文献で想定されている応用、すなわち、表面が塗装される前のチャコールもしくはトウモロコシデンブンタイプのパウダーの塗布においては重要ではない。

【0008】 米国特許出願2919703号には、バフタイプの部材からスクリーンから離れた面に加えられる圧力の作用により、製品がこのスクリーンを通して押し出されるように頂上部にスクリーンが形成されてなる、製品分配のための変形可能もしくはしなやかな構造の形態をとるパウダー貯蔵部が挿入されている。このような装置の欠点は、主として、実際のところ、スクリーンが変形可能もしくはしなやかな構造により支持されていること及び、このため容器内で高さが固定されていないことである。バフによって加えられる圧力によりスクリーンが動くために、バフ上に取り出される製品の量の正確さには実際に問題が生じる。さらにまた、このような容器を輸送する際には、スクリーンとバフとの間に

存在する空間がかなり大きいためにパウダー状の製品がスクリーンを通ってアプリケータに固着してしまい、容器を開けた際に汚いシミをつくることがある。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】したがって、パウダー状もしくは半液状の製品を実装及び分配するための容器であって、輸送及び／または貯蔵の間に製品がこぼれることなく、製品を充分な量で取り出すことができる容器が依然として求められている。

【0010】

【課題を解決するための手段】出願人は、固定したスクリーンを取り付けた、硬質の本体及び可撓性底面をもつ容器によれば、上記の欠点が解消されることを見出した。こうした外形では、スクリーンに加えられる圧力は、事実上スクリーンに軸方向の動作をさせないために、可撓性底面に力が加わった場合にのみ、製品がスクリーンの網を通過することになる。その一方で、スクリーンが、アプリケータによってその表面に垂直に加えられるもしくは指で直接加えられる力の作用でも動かないため、使用者が、アプリケータによって取り出される量を完全に制御することが可能である。したがって、本発明は、硬質の本体と可撓性底面とを具備し、この底面が、本体とともに、製品を収容する少なくとも一の体積可変の区画を限定し、さらに可撓性底面から離間した側に少なくとも一のスクリーンを具備し、このスクリーンは可撓性底面に加圧された際に製品を通してでき、容器内部に容器の軸方向に固定されて設置されている、少なくとも一のパウダー状もしくは半液状製品を収納し、塗布するための容器を提供する。

【0011】体積可変の区画は、本体そのものの壁、あるいはまた貯蔵部の壁により決定される。したがって本体が、製品を収容した貯蔵部を内部に設置した取り出し開口部を具備し、可撓性底面がこの貯蔵部の一部を成していることが望ましい。この貯蔵部は容器本体に固定されていることが望ましい。

【0012】可撓性底面、開口部及び体積可変の区画は、ほぼ同一の断面を有し、X軸に沿って配列されることが望ましい。この特徴のため、区画の底面のほぼ全体に圧力が加わることにより、変動可能な体積の区画を空にすることが可能である。この点は特に、開口部が貯蔵部の底面の中央部分とのみ一致する上記の米国特許出願2919703号に記載されている容器と異なっている。

【0013】スクリーンが体積可変の区画に設置されていることが望ましい。しかしながら、これは区画の上方に設置されているのがよい。スクリーンは製品が偶然こぼれるのを防止するために製品の解放表面から離間して設置されていることが好ましい。

【0014】本発明の容器の本体は、硬質の、即ち変形不能な材料、特に、プラスチック材料、ガラス、木、合

成材料、及びこれらの混合物より選択される材料から構成されている。この容器は、あらゆる可能な形状であってよく、貯蔵部は容器本体の穴に適合する形状であっても、そうでなくてもよい。

【0015】本発明は、あらゆる種類のパウダー状もしくは半液状製品、特にマイクアッピング／またはスキンケア製品に応用される。したがって、この製品は1μmから100μm、好ましくは6μmから20μmの粒子径のパウダーの形態をとることができる。この製品はまた、10⁻²Pa·sから0.15Pa·s、好ましくは5×10⁻²から0.12Pa·s、即ち、水の粘度の10から150倍の粘度の半液状製品の形態をとることができる。

【0016】本発明の容器には、製品をこぼすおそれがない一方で、製品を圧縮することなく正確な量の製品を容易に取り出すことができるという利点がある。この密閉性は、特に、本体が硬質であることとスクリーンが固定されていることによる。スクリーンの固定はあらゆる既知の方法、例えばフック、留め金嵌合装置によって、また、ノッチ、本体の端に押圧する手段、あるいはまた、これらの方法の2、3を組み合わせたシステムによって確実に行うことができる。この固定は、本体の上端でも、あるいは貯蔵部が与えられる場合には、貯蔵部の上端で行ってもよい。

【0017】製品の取り出しをうまく行うため、本体の上部表面は、可撓性底面から離間した隅の面上でスクリーンと同じ高さもしくはやや低い高さである。

【0018】容器の可撓性底面は、この製品の取り出すためだけでなく、製品を分解し、空気を吹き込んで、製品がパウダーの形態である場合には粒子の雲様の形態で、もしくは製品が半液状形態である場合にはより流動性の形態で、スクリーンの方へ移動させるために有用である。この底面は、あらゆる柔軟な材料による一もしくはいくつかの部分から構成することができる。

【0019】可撓性もしくは柔軟性の底面は、ピストン、特に熱可塑性エラストマー製の可撓性膜、開口もしくは半開口セルをもつフォームでできた部材、じゅばら、可動ブレート、もしくはこれら部材の二つ以上の組み合わせを備えている。特に、可撓性底面は、製品に面し、さらに製品と接触していてもよい、フォームを支持する可撓性膜を備えているか、あるいはまた製品に向かって、膜とフォームとの間に挟まれたピストンを備えているとよい。可撓性膜はまた、製品と直接接觸したピストンを支持することもできる。

【0020】可撓性底面には、静止位置では体積可変の区画と反対側に突出する形状を有し、製品をスクリーンを通して分配するための作動位置では可撓性膜の静止位置での形状と実質的に反対の形状を有することが望ましい。例としては、形状（頭巾の形態）は、可撓性底面の静止位置では容器の外側に向かって凸型であり、作動位置では内側に向かって凸型である。この特徴が、製品の

取り出しに必要な力を減少させ、また製品を収容した容器を完全に空にできるように可撓性底面の動きをより大きくするのに役立っている。

【0021】フォームは熱可塑性多孔性材料、例えば特に、ポリエーテルフォームもしくはポリウレタンフォーム、ラテックスフォーム、もしくはエラストメリックフォームより選択される材料で形成されることが好みしい。これらフォームは、特に、10体積%から80体積%の開口セルをもつ。

【0022】実際には、フォーム製の部材のセルは、開口(孔径)が0.005mmから2mm、好みくは0.1から0.5mmのものである。フォームの厚さは特に、製品中に吹き込む望ましい空気の量及び/または製品をスクリーンと接触させるため及び/または製品の塊を壊すために望ましい変形の程度によって異なる。もちろん、フォームの厚さはまた、容器の厚さによっても異なる。

【0023】予測される適用によって、特に、製品の性質によって、製品の取り出しは使用者の指で行われてもよいが、バフもしくはブラシ等のアブリケータ部材で行われるとさらによい。さらにまた、アブリケータ部材は、各網目に入った製品を、可能な限りうまく取り出すことができるようスクリーンの網目の形状に適合することができる変形可能な材料で構成するとよい。特に、アブリケータ部材が、製品の取り出しを促進するような長さ及び密度の毛房を有するとよい。毛房の代わりに、アブリケータ部材にフォームの性質をもたせることでできる羽、ロック表面もしくは小孔を有するものでもよい。

【0024】最後に、アブリケータ部材に、殺菌剤及び滑剤より選択される少なくとも一の添加剤が被覆されている及び/または浸透しているとよい。滑剤が存在すると、皮膚上の製品の伸びが促進されるという作用がある。殺菌剤が存在すると、常時皮膚と接触しているので、アブリケータ部材内の細菌のコロニーの形成を回避できる。

【0025】容器、特に貯蔵部の内容物を保護するために、最初の使用の前に永久的に除去されるか、または各使用の後に再度被せられるカバーがあってもよい。このカバーはストッパーで再び取り付けることもでき、この場合には、容器の一部がストッパーを受容せねばならず、特に貯蔵部にはストッパーと相補的に螺合されなければならない。

【0026】本発明の容器は特に、硬質の枠もしくはフランプを具備することができ、これらは取り外しができてもできなくてもよいが、アブリケータ部材と共に製品がこぼれないことを確実にし、この枠は製品に接近でき、また、任意にスクリーンを固定することができる。この枠は、取り外し可能もしくは取り外し不能な方法、例えばヒンジで容器の本体に固定されるとよい。この枠がある場合は、更に、アブリケータ部材、特にバフを収

納するのに有用である。

【0027】製品が容器からこぼれないようにするためには、貯蔵部及び硬質の本体との間に他の密閉手段が与えられてもよい。これらの密閉手段は容器本体に貯蔵部を固定するための手段と同一であることが望ましい。

【0028】更に容器の密閉性を向上させるために、この容器はフタを備えている。更にまた、フタとカバーとの間に密閉手段が与えられてもよい。この場合には、アブリケータ部材が密閉手段を構成してもよい。

【0029】容器内に存在する製品を取り出すために、スクリーンの両面、特に可撓性底面とスクリーンとに二つの向かい合う圧力が加わる。

【0030】即ち、第一の圧力が例えば片手の指で可撓性底面に加えられ、第一の圧力と向かい合う第二の圧力が、他方の手の指によりアブリケータ部材(バフ)を経て製品に加えられる。これら二つの圧力により、製品の一回量を取り出すと、同時に使用することが可能である。可撓性底面に加えられる第二の圧力により製品内部に空気を送り、製品をスクリーンと接触させることができる。製品の取り出しの際にはスクリーンは硬質の本体に対して不動に保たれる。

【0031】可撓性底面への加圧を促進するためには、底面には硬質の部分を設けてもよく、滑り止めの握り部分があつてもよい。

【0032】スクリーンの作用は、取り出しの際に製品をアブリケータ部材上に均一に広げることである。スクリーンの形状及び厚さ並びにその網目の大きさは、スクリーンの両面から圧力が加えられなくなった際にこの製品がこぼれ出しがなく、所定量の製品を取り出すことのできるものである。

【0033】特に、スクリーンは織物もしくは不織布、網、フォーム、フィルムもしくは穿孔した表面もしくはこれらの部材の組み合わせにより形成することができる。スクリーンの網目の大きさは1μmから2.5mmの範囲であるとよく、好みくは30μmから600μm、さらによいのは50μmから300μmである。さらにまた、スクリーンには殺菌性もしくは静菌性添加剤を浸透させることができある。さらにまた、あらゆる種類のロックコートを施すこともできる。この場合には、ロックコートの毛が開口部の大きさを減少させるので、スクリーンの網目は上述のものより大きくすることができます。さらにまた、スクリーンは平坦もしくは湾曲した形状(凹状、凸状)のものであつてよい。

【0034】凹形状のスクリーンを用いると、取り出し操作が最も深い部分に進行した際に製品の蓄積を形成する。しかしながら、特に確かな通気機能及び/または製品を取り出す機能をもつ可撓性底面が存在することにより、スクリーンの網目に製品が蓄積してしまうことが回避できる。スクリーンの下の容器の底面に蓄積する製品の取り出しへ、スクリーンと可撓性底面とに圧力が加わ

っていない場合、また、底面が最初の位置に戻っている場合に行われる。

【0035】望ましくは、本体に貯蔵部が固定するための手段が与えられるとよい。これらの固定手段としては、永久的（接着、スナップ留めもしくは溶接）もしくは一時的（容器の枠と本体との間に貯蔵部をサンドイッチ状に挟む枠）なものが可能である。一時的な固定手段の使用によれば、貯蔵部を所望の頻度で取り替えることが可能である。したがって、交互に異なる製品（異なる色のパウダー、アイシャドウ）を収容する異なる貯蔵部を同一の容器で使用することが可能である。これらの貯蔵部は詰め替え部を構成する。例えば、使用者がスキンケアを開始し、スキンケアクリームを収容した詰め替え部を使用し、スキンケア詰め替え部をメイクアップパウダーを収容した詰め替え部と取り替えることができる。この容器は、任意に、異なる種類の製品を収容した数個の詰め替え部を具備することができる。これらの各詰め替え部には、本体の、詰め替え部を受容することのできる一つの体積可変の区画及び一つの開口部が対応している。

【0036】詰め替え部は容器本体の開口部に、底面から挿入することができるが、本体上部からであるとさりによい。詰め替え部はそれぞれ、可撓性底面、分配する製品、スクリーン、様々な密閉手段及びスクリーンを固定する手段を備えている。この場合は、スクリーンは各詰め替え部の上部端面に固定されていることが好ましい。

【0037】

【発明の実施の形態】ここに、本発明を、非限定的に添付の図面を参照してさらに詳しく説明する。図1には、参考番号1をつけたメイクアップ容器が示され、これはI-I'線での断面が楕円形のものである。この容器には本体5に固定フィルムヒンジ6によって軸固定されたフタ2がある。本体及びフタは硬質のプラスチック材料製である。留め金2cによって、確実に容器の本体にフタが閉じられる。

【0038】図2では、本体5はその中心に本体の厚み方向に表面から底面まで横切る円筒状の開口部3を具備し、この開口部はシリコーンシートなどの柔軟で弾性の材料でできた波形の膜4aからなる可撓性底面4で閉じられている。可撓性底面及び本体の内部面（もしくは開口部の形状）によって体積可変の容器が構成される。膜4aは環状リング4cによって本体の下端に固定されている。可撓性膜4a上には、膜4aの中央バレー内にスナップの原理を用いて固定された中央フィンガー4dを備えたピストン4bが、（矢印F1及びF2に沿って）移動可動な状態で設置されている。この膜は弾性があるので、スクリーンに向けてずらした後に当初の場所に戻る。スクリーンの周辺に設けられた環状丸縁5cによりピストンの移動が制限されている。このピストンが、約

0.5mmの孔径である開口セルをもつポリウレタンフォームスラブ7を、パウダー状製品8と接触した状態で支持している。容器の使用を容易にするために、本体の底端5aは少なくとも可撓性底面と等しい高さである。フタの内部面2aは、鏡2bを備えている。

【0039】任意にフロックコートを備えたスクリーン9は、固定枠11の折り返し端10によって本体の開口部3の上部に周囲に渡って固定されている。この端10により本体5と製品区画とが密閉される。スクリーンは、容器の本体の上部表面5bよりもやや低く、またパウダーの上部表面から遠隔に設置されている。枠11は本体と同様の硬質の材料から構成され、丸縁-溝留めシステム（bead-groove catch system）によって、本体5の上部5bの内周に固定されている。この枠は、スクリーンの保持を行うと同時に、パウダー8がこぼれることに対して容器1、特にフタの密閉も行っている。この枠には製品8に通じる開口部11cがある。フロックコート12aを備えたパフ12は、枠の上に載せられる。このパフによってパウダー8の取り出しができ、また、容器を閉じた状態でのパウダーがこぼれることに対する容器の密閉を完全になっている。枠11の内部端11aによって、容器を閉じた状態でパフがスクリーンと接触しないようにパフが持ち上げられ、また、容器の密閉が確実になっている。枠11の環状の窪み11bにより、この窪み11bと相補的な形状を有するパフ外周の丸縁12bを受容することができる。

【0040】パウダー8の一一定量を取り出すためには、使用者は容器を片手に保持し、指で可撓性底面4、特に膜4aを押す（矢印F2）。他方の手で、パウダー8の上にパフ12で圧力を加える（矢印F1）。このようにして使用者は、容器の両面に向かい合う二つの力、F1とF2とを、それぞれ容器の底面と上面に加えることになる。

【0041】力F2は、可動ピストン及びフォーム7を経てスクリーンに伝えられる。したがって、これら二つの圧力がスクリーン9の両面に加わる一方、スクリーンは本体5の側壁に固定されたままである。上方向の圧力F2によって、パウダーはさらに通気され、スクリーンに分配される。パフによる下方向の圧力F1によってパウダーがパフ上に取り出される。

【0042】いったんパウダーが取り出されると、使用者は再度容器を閉じる。フォームスラブ7、ピストン4b及び可撓性膜4aは最初の位置に戻る。さらにまた、次の使用までの間、容器は確実に密閉される。中でも、パフを、スクリーンの上方だがスクリーンと接触していない位置とすることによって、容器は確実に密閉されている。

【0043】図3の容器は、図2のものとは製品の貯蔵部13がある点で異なり、これは本体の開口部3内に設けられた製品詰め替え部から成り、開口部3と相補的な

11

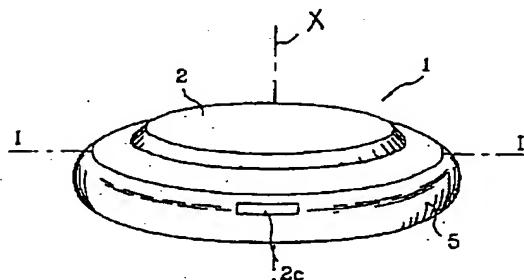
形状のものである。この詰め替え部を、図4にさらに詳しく示した。これには、双射出成型法により熱可塑性プラスチックエラストマーから作られる可撓性膜4aで形成される可撓性底面4があり、この底面4は上部円周フランジ15を備えた硬質の円筒状スカート14を取り付けられている。このフランジには折り返し端15aがあり、この折り返し端15aと、容器の上部表面5b上の対応する環状溝10aによって、容器1上に固定されている。取り外し可能なカバー16は、詰め替え部を最初に使用する前とその後の使用の間に製品を保護する。膜4aが、任意に膜の周囲の部分よりも堅く、容器の握りとして役立つ中央補強部材4fを備えていてもよい。

【0044】この実施態様では、可撓性底面4と詰め替え部のスカート14の内部面とにより体積可変の区画が構成されている。詰め替え部13の中には、フォームスラブ並びにパウダー8及びスクリーン9を支持するピストン4bが収容されている。ピストン9はスナップ手段4dにより膜に取り付けられている。

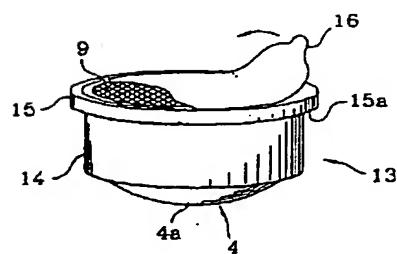
【0045】図2のように、容器の固定枠11は、バフ12をスクリーン9に対して上げておく内部端11aを具備している。この枠により、詰め替え部のフランジ15が容器表面5bと枠11とに挟まれるので詰め替え部が確実に固定される。

【0046】図5では、本体5はプラスチック等の硬質の材料から成る可動底面4eを有する。この底面4eは、本体5の円周の内部端5aに形成された環状区画2*によって構成される。

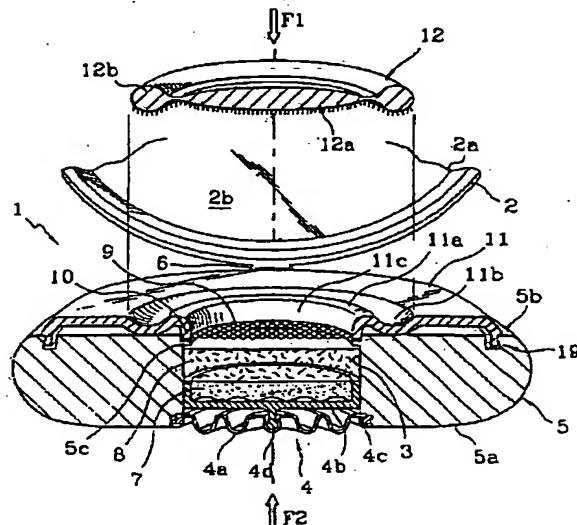
【図1】



【図4】



【図2】



* 0内にスライド可能なように設けられている。環状のショルダー・ストップ系21により可動底面が本体中の位置に保持されている。必要ならば、底面4eは不滑性材料により被覆されていてもよい。詰め替え部13は本体5の開口部3内に設置されている。この詰め替え部13は、可動底面4eと接触し、また、弾性があり変形可能で底面4eを復元するための手段を成す膜4aを備えている。この膜は、ピストン4bとフォームスラブと共に、製品が取り出される際にパウダーをスクリーンの方へ移動させる。バフ12を支持する木枠11は、貯蔵部13の上部5aに固定されている。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の容器の閉じた状態の遠近法による斜視図である。

【図2】 本発明の容器の第一の実施態様の開いた状態の図1に示したI-I'直徑方向における断面である。

【図3】 本発明の容器の第二の実施態様を図2と同様に示した断面図である。

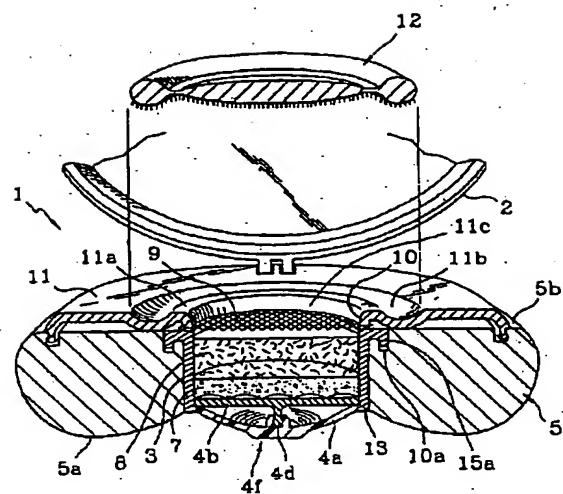
【図4】 交換可能な貯蔵部の遠近法による斜視図である。

【図5】 本発明の容器のさらに別の実施態様の断面図である。

【符号の説明】

1…メイクアップ容器、4…可撓性底面、8…製品、9…スクリーン。

【図3】



【図5】

